



報告に聞きいる学習会参加者＝
8月30日、福祉交流センター

8月30日取手駅西口開発と図書館問題についての学習会が福祉交流センターで、取手駅前開発を考える会（遠藤俊夫代表）主催で行われ、約50人が参加しました。

取手駅前開発を考える会主催

「駅前開発と図書館づくり」学習会開かる

事業の長期化と事業費膨張は 区画整理と再開発の一体整備にある

加増みつ子
議員

学習会では、取手駅西口開発と市民運動の歴史について、区画整理と再開発の一体整備計画が、地権者の合意を困難にしたことが、事業の長

期化と事業費の暴騰をまねいたことなど、再開発事業の現状と課題について報告しました。

複合公共施設整備方針決定は 「地方教育行政法違反」

遠藤俊夫
会代表

「駅前開発と図書館づくり」に対する「考える会」の考え方について、「教育機関である図書館の職務権限を犯しての開発部局主導で進

める複合公共施設整備方針を決定したことは、地方教育行政法違反」と会の見解を述べました。

都市計画決定手続きに誤りあり

高木 晶
会役員

都市計画事業をすすめる市の対応と問題点について、市民説明会も公聴会も都市計画審議会の審議も一貫して、複合公共施設整備計画を都市計画の対象外とした「都

市計画決定に誤りがある」と指摘しました。

その後、参加者からの意見・質問に主催者側が応答しました。

参加者の声…

「すべては、同感だがこの問題をどのように市民に知らせるかが問題」「スライドをもとに問題を詳しく説明されたのが分かりやすかった」中には「むずかしくて良

くわからない」の意見も。「今ある取手図書館を改修してほしい」「図書館の構想づくりへの市民参加が必要」など、発言とアンケートに意見が寄せられました。

日本共産党

2026年 取手市民アンケート実施中

今回のアンケートは9月30日締め切り

命と暮らし・福祉・教育、まちづくりなど、皆様のご意見・要望を広くお伺いし、市・県・国と関係機関に届け、その実現に力を尽くしています。

アンケート用紙は、お家に届いた用紙を活用して頂くかこちらのQRコードからお答え下さい。



9月議会（9/2～9/18）

日本共産党

市民主体の市政執行を

9月市議会は2025年度一般会計はじめ各種特別会計決算などに合わせ、議員の一般質問等、市政の前進につながり、物価高から市民の暮らしと営業を守る政策に生かされる論議が求められる議会です。

日本共産党は、一般質問や議員の意見書提案権を生かして、医療・福祉、開発・まちづくりと防災、食料と農業など市民主体の市政執行を求めました。

・・・一般質問の1部紹介します・・・

営農・稲作支援で、 後継者不足の農家を守れ

市議会議員 遠山ちえ子



気候変動による各地の記録的豪雨災害、他人ごとではありません。まずは、自助・共助で身を守り、近所で声を掛け合うこと。自治体第一の役割は住民の命と財産を守ること。「公助」として行政が地域に出向き、防災減災について啓発活動を行うよう求めました。

米が店頭から消え、価格が高

騰した「令和の米騒動」から一転、米価が急落。農業従事者の高齢化で後継者不足が深刻化し、離農者が増えると危惧されています。生産調整目的の飼料米に上乗せする制度利用の農家は、市内で200件を超えています。せめてその分を「米作支援」にと求めましたが、回答は得られませんでした。

地震災害 温暖化 防災井戸設置 街路樹など緑化方針促進を

取手市では、直下型の茨城県南部地震の震度6強が想定されています。7月の熊本地震でも生活水の確保が大きな問題となりました。

市が蓄えている防災貯水槽は飲料水で4.4万人3日分です。生活用水にすると1日持ちません。

指定避難所に防災井戸設置



市議会議員 本田かずなり

は急務です。防災井戸設置を強く求めました。

また環境について、温暖化が進む中、街路樹を含む樹木は熱中症の予防や健康維持に欠かせないことを指摘し、今後の緑化の方針を質しました。

市は「緑の基本計画」の将来像を目標とし、啓発を進めると答えました。

開発手法・合意形成に失敗 無反省な取手市

市議会議員 加増みつ子



取手駅西口A街区再開発区域は、市施行の区画整理事業費約100億円で基盤整備が行われた。地権者の7割が再開発離れした現状の要因と市の責任について「再開発は、組合施行とはいえ取手市が推進、決定権者は市長にあり、開発の手法と合意形成の失敗が、事業遅れと事業費の拡大となった」と市の責任を質した。

市は「市が責任を負うという

ご指摘は当たらない、撤回はしない」と反省もなく開き直りました。

また、「複合公共施設整備計画の推進は『地方教育行政法21条（教育委員会の職務権限）』違反」との追及に、市は答弁不能に。

私は、市に対し「あまりにも無責任、計画は白紙に戻すべき」と強く要求しました。

政治は誰のカネで

誰のために
動いているのか

政治
とカネ

福岡県議会では、正副議長就任の見返りに自民党会派幹部が2千万円以上を要求したという証言に加え、高額海外視察や県幹部互助会によ

公職を金で売買

るパーティー券購入まで発覚しました。公職がカネで売買されるなど、自民党の県政私物化の実態が浮き彫りになりました。

官房機密費

目を国政に転じても、高市政権は、毎月およそ1億円もの「機密費」を、使い道を一切明かさず垂れ流し続けています。一方で自民党は、政治資金規正法違反で立件された政治資金パーテ

政権に毎月1億円
領収書なしの機密費

ィー収入裏金事件にみられる企業・団体の違法献金受け取り。政党助成金を使った選挙買収疑惑も問われながら、それらの真相解明を拒否しています。

政党助成金

日本共産党以外の全政党が受け取る政党助成金、その使い方が改めて問われているのが、党解体の方針を決めた中道改革連合。中道議員は新たに立ち上げる新党へ、または公明党に復党するとされています。ところが一人を中道に残し、中道に交付される20

政党の離合集散で
政党助成金の行く先は？

26年分の政党助成金の未交付分約11億7千万円をまるまる受け取るようになるのです。政治は誰の金で動き、誰のために動いているのか、高市政権の下で、今、「戦争か平和か」、「政治とカネ」、政党の在り方が厳しく問われています。

安全・快適な街
皆さんと力合わせて



加増みつ子

新設東口公衆トイレ床清掃改善
ギャラリーロードも照明改善へ

取手駅前公衆トイレ（ギャラリーロード）が、地域の皆さんの要望で新しくなりました。しかし使用開始間もなく利用されたみなさんから、「せっかく新しくなったのに床が水でビショビショ、不快になる。きれいにふき取ってほしい」など声が寄せられました。さっそく市に実情を話し、改善を繰り返し求め、水濡れ状態は

解決しました。またギャラリーロードの照明が暗いとの声がある中、LED化の予算が組まれています。「駅東口側にトイレを」と長年の要望がやっと実現しましたが、案内板がなく「トイレはどこですか？」との問い合わせが時々寄せられています。丁寧な案内が必要ですね。さらに市に求めてまいります。

＜お知らせ＞

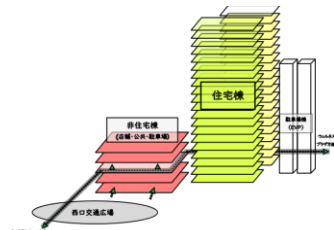
“自由と平和”語りうたう

2026 JCPとりでふれあいフェスタ

11月15日(日)
AM10:00~PM2:30
取手ウェルネスパーク
【JR取手駅西口】

主催：jcpとりでふれあいフェスタ実行委員会

詳細はQRコード



取手駅西口開発に巨額の税金

これまで西口開発総費用 358 億円

これからさらに A 街区再開発に 187 億円。

図書館等複合公共施設に 49 億円想定。



取手駅西口地区の開発事業にこれまで投じられた費用（概算）

		総事業費	市の負担額		備考
			一般財源	地方債（借金）	
第一次市街地再開発事業		103億1,171万円	23億円	18億9,500万円	外、国費、県費及び地権者負担（保留床処分49億円）
第二次開発事業	北土地区画整理事業、（内、移転補償費）	220億4,200万円（104億4,800万円）	55億9,400万円（55億1,400万円）	53億5,900万円	外、国費及び県費 移転補償費（令13年～23年度）
	公共駐車場建設事業	4億2,185万円	3億900万円	1,600万円	外、国費及び県費
	茨城県学生寮跡地購入	4億8,700万円	3億9,530万円		債務負担行為により後年度負担
	ウェルネスプラザ建設事業	20億5,600万円	6,220万円	11億7,900万円	外、国費及び県費
	歩行者デッキ事業	4億9,878万円	1500万円	2億8,100万円	外、国費及び県費
	第二次開発事業費累計	255億563万円	63億7,550万円	68億3,500万円	
第一次と第二次の合計		358億1,734万円	86億7,550万円	87億3,000万円	
市の負担額（一般財源＋地方債）			174億550万円		

「再開発と図書館」

シリーズ⑥

取手駅前開発に
お金をかけ過ぎてはいませんか？

右記の表は、市の資料を基に「取手駅前開発」各事業に要した経費と、その中の市の負担総額及び国等の補助それぞれ2025年度まで第一次開発にさかのぼり「取手駅前開発を考える会」がまとめたものです。